

四三六五番

おしてるや 難波の津ゆり 舟装ひ 我は漕ぎぬ
と 妹に告ぎこそ

四三六六番

常陸さし 行かむ雁もが 我が恋を 記して付け
て 妹に知らせむ

四三六七番

我が面の 忘れもしだは 筑紫嶺を 振り放け見
つつ 妹は惚はね

四三六八番

久慈川は 幸くあり待て 潮舟に ま梶しじ貫き
我は帰りに来む